

地震調査研究推進本部の動き

- 全国を概観する地震動予測地図について -

地震動予測地図作成の経緯

地震調査研究推進本部の地震調査委員会では、これまで、主な活断層や海溝周辺における長期的な地震の発生可能性の評価（長期評価）や、そこで地震が発生した場合を想定した強い揺れの予測（強震動評価）を実施し、その結果を公表してきた。

これらの評価に基づき、地震による被害の軽減に資することを目的として、地震による被害の主な原因となる強い揺れの予測を全国的に行った結果をとりまとめて地震動予測地図として提示するに至った。

地震動予測地図とは？

一般に、地震が発生したときに対象としている地域を見舞うであろう地震動の強さやその地震動が生じる確率を予測した地図。

地震動予測地図の目的

対象地域の住民や防災関係機関の防災意識を喚起し、防災活動に活用するための基礎資料とすることが目的。

地図の種類

確率論的地震動予測地図

- ・対象地域に影響を及ぼすと想定される全ての地震を考慮し、将来予想される地震動の強さを確率を用いて表現するもの。
- ・基本となるのは、以下の2つのパターン（別紙参照）。
 - ア 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる「確率」の分布図
 - イ 今後30年以内に3%の確率で一定の震度以上の揺れに見舞われる領域図

震源断層を特定した地震動予測地図

地震を特定し、将来の発生確率の数値の大小は考慮せず、そこであらかじめ想定された形で地震が起きた場合、どのような地震動が生じるかを予測する。

両地図の使い分け

【評価対象地域に影響を及ぼす地震の観点から】

- ・震源断層を予め特定しにくい地震の発生頻度や、複数の大地震による影響を総合的に見るために発生確率を考慮する必要がある場合

確率論的地震動予測地図

- ・評価対象に大きな影響を及ぼす地震が1つ又は複数特定されている場合

震源断層を特定した地震動予測地図

【揺れの強さの観点から】

- ・一定期間に見舞われる可能性のある揺れの強さに応じて対策の優先順位を検討する場合 **確率論的地震動予測地図**
- ・特定の地震に対し、揺れの強さの分布から被害の特徴や被害量を把握したい場合 **震源断層を特定した地震動予測地図**

愛知県被害予測調査との関係

- ・平成14年・15年愛知県東海地震・東南海地震等被害予測調査が「震源断層を特定した地震動予測地図」に該当。
- ・愛知県においては、500mメッシュにより、東海地震、東南海地震の同時発生した場合の震度分布を、液状化の危険性、急傾斜危険地の危険度と併せて公表。

地震動予測地図の活用

- ・地域住民の地震防災意識啓発のための基礎資料
- ・重点的な調査観測の対象となる地震や地域の選定の検討資料
- ・国や地方公共団体等の地震防災対策検討のための基礎資料
- ・施設の立地等の計画や、全体を大括りで区分する地震保険等の評価における基礎資料